NPO法人
未来プロセス

会報誌
発行元
特定非営利活動法人 未来プロセス　TEL：06-6885-1021　FAX：06-6307-2257
〒532-0011 大阪市淀川区西中島 3-18-9 新大阪日大ビル 10 階　info@mirai-process.org

2017.07.01

NPO法人
未来プロセス

未来プロセス通信

2017 年 7 月 発行 Vol.7

希少動物保護を目指した植林活動　マレーシア植林活動研修報告

研究サイトで出会ったオランウータンの親子

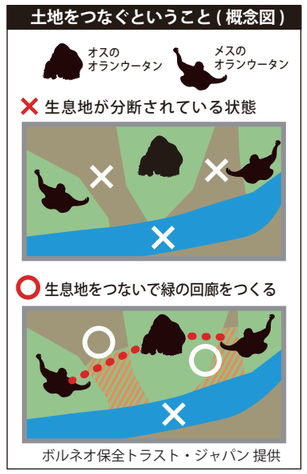
マレーシア ボルネオ島の北東部に位置するサバ州、その南エリアにあるキナバタンガン川流域に広がる熱帯雨林はオランウータン、テングザル、テナガザルなどの霊長類、サイチョウやサギの仲間、ボルネオゾウなど希少な動物に出会える場所です。しかし、食用油や洗剤などの私たちの身近な製品の原料となるアブラヤシのプランテーションの拡大により、野生生物が生息できる熱帯雨林は縮小され、残った森と森も分断されて「熱帯雨林の断片化」が起こっています。動物たちは森と森を自由に行き来できず、パートナーに出会うことができなかったり、近親での交配が進むこと等、生態系に大きな影響が及ぼされています。

特定非営利活動法人未来プロセスは、国内外の医療従事者に対する教育・育成および市民公開講座等の開催・支援による医療啓発活動を続けるとともに、同時に希少動物を目指した植林活動を展開しています。

昨年 2 月　京都大学霊長類研究所を訪問しました

かねてより植林活動についてご相談させていただいていた京都大学霊長類研究所 湯本 貴和 所長のコーディネートにより、サバ州で野生動物の保護活動を長年続けてきたＮＧＯ(非政府組織)「ＨＵＴＡＮ」の支援を決定し、昨年 2 月、愛知県犬山市の京都大学霊長類研究所にて、「ＨＵＴＡＮ」代表のイザベル・ラックマン博士による現地活動でのプレゼンテーションを受けるとともに、皆様からの募金や協賛・寄付によりお預かりしたご厚意の中から、100 万円を「ＨＵＴＡＮ」へ贈呈し、そのセレモニーを行なわせていただきました。

今年も、同じく 100 万円を「ＨＵＴＡＮ」へ贈呈するとともに、京都大学霊長類研究所 湯本 貴和 所長にご同行いただき、現地、マレーシア サバ州 キナバタンガン川流域にて「植林活動研修」を開催しました。



ボルネオ保全トラスト・ジャパン 提供

緑の回廊プロジェクト

キナバタンガン川沿いの分断化された野生動物の生息地を結び、生態系を繋げるために、購入、寄贈で土地を確保し、「緑の回廊」つくるＮＰＯ法人ボルネオ保全トラスト・ジャパンの活動。「ＨＵＴＡＮ」もこれに連携し活動している。

トータルヘルスケアサービス
ホロニクスグループ

京都大学 霊長類研究所 所長 湯本貴和先生が語る「キナバタンガン川流域の自然と森の再生」

●の写真は湯本先生提供

キタカササギサイチョウ

テングザルの親子

キナバタンガン川流域は希少動物の宝庫

夕方に研修や植林活動を終えて、ボートでロッジに帰るとき、数種類のサイチョウが数羽に群れてキナバタンガン川を渡っていきました。日本でカラスが巣に帰っていく日常の風景のようなシーンでしたが、世界の他の地域ではサイチョウを観察しようとすると、一羽に出会うことでさえ大変難しいことなのです。さらに、今回の研修では、1度のボートクルーズでテングザルの群れを数度確認できたり、毎日のようにオランウータンを観察できました。そして、テナガザルの声を遠くに聞くことができました。この偶然を多く体験できるということが、この地域は希少動物の宝庫であり、多様な野生動物を育んでいる熱帯雨林があるということです。しかし、その森も、アブラヤシのプランテーションの拡大等により縮小・分断化され、それぞれの動物がその個体数を減らしているという現実を忘れてはなりません。

地域と歩む「HUTAN」。女性の社会進出もサポート

植林活動を行う団体は様々ありますが、中には継続性と独立性の面で課題のある団体もあります。「HUTAN」はこの地でオランウータンの研究を行っていたイザベル・ラックマン博士を中心に、すでに 19 年間活動を続けてきており、未来プロセスから相談を受けた時に私が推薦すべき組織のひとつでした。「HUTAN」は野生動物たちを守るために、地域や行政機関との連携を図りながら植林とメンテナンスを続けています。その活動が環境問題のみに傾向することなく、地域の経済的な側面をも取り込みながら事業の継続や新規事業を展開していることが本当にすばらしいと考えています。「HUTAN」で植林を行う女性は、自分の子どもを育てるようにやさしく、細やかに木々を見ていると同時にそれぞれ木の特性を学び、森の再生に、そして、野生の動物たちに必要な木は何か判断できる専門性をも身に着けています。現地では、まだ男女の差がありますが、女性の地位向上のため、その特性を生かした仕事に取り組むことができるよう方向づけていることも、今回コーディネートさせていただくことを決めたひとつの理由です。

イザベル・ラックマン博士（右から3番目）
NPO法人谷副理事長（右から2番目）と現地植林女性スタッフ

植林により再生された森

マレーシアでの経験を身近な自然を見つめ直す機会に

「HUTAN」が植林を行っているのは、一度伐採された後の二次林です。私たちのアフリカの研究でも野生動物が原生林よりも二次林での滞在時間が長いという研究結果がありますが、ラックマン博士は、その二次林で野生動物が暮らしていけることを証明しました。
日本では、「奥山」と「里山」という言葉があります。「奥山」が原生林、「里山」が二次林と考えていただければ結構ですが、私たちは長い間、多様な植物を植え、管理して里山から多くのものを得てきました。しかし、スギ・ヒノキの産業林が置き去られたように、アブラヤシよりも効率的なモノが発見されれば、この広大なアブラヤシのプランテーションはただのゴミの山になってしまいます。そうなるか、そうならないかは別の問題として、単独の植物のみで森や林を形作ることは、愚かな行為です。豊かな森は、豊かな動植物を育み自然のサイクルの中で多様性を増していきます。研修参加者の方には、今回の研修をマレーシアのみの課題として捉えるのでは無く、日本の森や林の問題についても改めて考える機会として生かしてほしいと思います。

キナバタンガン川にせまるプランテーションエリア

HUTAN 海外研修生の指導による苗木周辺の草刈り

NPO法人未来プロセスより～「感謝の気持ちを込めて…」

今回のマレーシア植林活動研修は、昨年 2 月に愛知県犬山市の京都大学霊長類研究所でお会いすることができた、湯本先生、松田先生、そしてイザベル・ラックマン博士からの多大なサポートを受けて、成功を収めることができました。特に湯本先生には、京都大学霊長類研究所 所長として日常が多忙を極めているにも関わらず、時間を切り裂いてご同行いただけことに本当に感謝しています。湯本先生の研究者として、そして教育者としての知識・経験に触れることが出来て、これ以上にない体験ができました。可能であれば、例え短時間でも再び、湯本先生のお話を聞くことができる機会をいただければと考えております。
また、NPO法人未来プロセスの活動へ、これまで通り様々なご助言をいただきたい、とも考えております。何卒、引き続きご指導をよろしくお願いいたします。

京都大学霊長類研究所　湯本先生（右から５番目）と
植林を指導いただいた HUTAN のスタッフと研修参加者

宿泊したロッジへやってきたボルネオゾウ

マレーシア植林研修活動 スケジュール　[期間：2017 年 6 月 2 日～ 7 日]

1日目　関西国際空港よりクアラルンプール（マレーシア）へ

2日目　クアラルンプールより、サバ州 スカウ村（キナバタンガン川流域）へ夕刻より野生動物観察

3日目　早朝より野生動物観察

イザベル・ラックマン博士によるプレゼンテーション

「HUTAN」活動報告　寄付金贈呈セレモニー

（NPO法人未来プロセスから「HUTAN」への寄付金（100 万円）を贈呈）

「HUTAN」植林サイト視察・植林チームとのミーティング

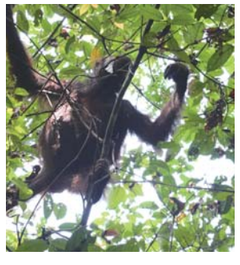
4日目　**「HUTAN」植林サイトでの植林活動研修**

「HUTAN」アナツバメ個体数増加プロジェクト視察

「HUTAN」スタッフとの交流会　（夕食ならびに伝統玩具づくり）

5日目　**「HUTAN」オランウータン研究サイトでの野生動植物観察**

サバ州 スカウ村よりクアラルンプールへ



6日目　クアラルンプールより早朝 関西国際空港着

第1回 マレーシア植林活動研修　参加者の声

団　長

NPO 法人未来プロセス 副理事長
谷（たに） 淑子（よしこ）

出発前には現地の治安も心配されましたが、京都大学霊長類研究所所長 湯本先生のご協力をいただき、無事に全日程を終えることができました。
この植林活動を通して、我々参加者は自然環境保護の意義・本質を学び、オランウータンをはじめ野生動物や森の再生について深く理解することができたと思います。

副団長

医療法人医誠会 本部 医療経営企画部
部長補佐　岩片（いわかた） 重樹（しげき）

充分な装備をして現地入りしたが、想像以上に厳しい条件の植林場所もあった。内モンゴルでの植林との違いは、頻繁に行う下草刈などのメンテナンスの作業。現地との連携を強め希少動物保護の植林活動をサポートしていきたい。

ナーシングヘルスケア株式会社
総務人事課長　鶴野（つるの） 幸司（こうじ）

オランウータンの保護が行われている場所で、多くの珍しい動物たちに出会えた。その中で多くの学びがあり嬉しく思っています。参加者の皆さんとも楽しくコミュニケーションでき、最高のチームワークで植林研修に臨めました。

医療法人医誠会 本部
看護師対策部 主任　松本（まつもと） 康弘（やすひろ）

今回の植林が希少動物の住む分断化された森をつなぐ重要な意味があることが理解できた。植林と聞くともっと長いスパンでの環境保護と捉えていたが、植林を始めて 7 年から 10 年でオランウータンが来る森となっていることに驚いた。

医療法人医誠会 エスペラル摂津
看護部長代行　佐藤（さとう） 秀子（ひでこ）

環境の保全、希少動物保護の取り組みを続けている方々がいる。そして、私たちもその活動に参加することができる。今回の貴重な体験を職場の皆さんや自分の子供達にも伝えていくことが私の使命。参加できて本当に良かった。

医療法人医誠会 十三医誠会クリニック
看護部　杉内（すぎうち） 友美（ともみ）

植林を行っている女性の方が生き生きとしており、意識啓発や環境整備に取り組んでいるイザベルさんはすごい方だなと思った。オランウータン、テングザル、ボルネオゾウなど本来の野生の姿を見ることができ、大満足でした。

医療法人医誠会 本部 財務部
荒田（あらた） 知江（ともえ）

希少動物保護を目指した植林活動への参加ははじめての体験。ワクワク感を持って、楽しく研修活動に参加できたが、日々、真摯に取り組んでいるHUTANのスタッフの姿を見て感動した。これからも関心を持って見守りたい。

医療法人医誠会 本部 医療広報部
課長　中内（ちゅうない） 修三（しゅうぞう）

昨年 2 月、愛知県犬山市の京都大学霊長類研究所でお会いできた湯本先生、松田先生、イザベルさんのサポートを受けて今回の植林活動研修は成功を収めました。出会いに感謝！ありがとうございました。

2016 年度　NPO 法人未来プロセス主催
健康フォーラム・公開医学講座　開催報告

NPO 法人未来プロセスでは、国内、国外における医療従事者に対する教育、育成及び市民公開講座の活動と支援を行い、医療知識を広めることで、公益に貢献する事を目的に活動を続けています。昨年度、主催させていただいたフォーラムや公開医学講座は 113 開催を数え、延べ 4,182 人の方に、ご参加いただきました。現在は主に医療法人医誠会にご協力いただき、後援や講師派遣を行っていただいております。

今後は、市民の方への更なる医療啓発を進めて行くため、様々な組織・団体とも連携を目指して活動の範囲を拡大させていただきたいと考えております。協賛・寄付等を通じての皆様のご支援を心からお待ちしております。

	講座数	講座来場者数
無料公開医学講座	100	3,276
「がん」をテーマとした公開医学講座	12	496
「第 17 回健康フォーラム」	1	410
総数	**113 講座**	**4,182 人**

◀「がん」をテーマとした公開医学講座

▼定期的に開催される市民向け公開医学講座

▲第 17 回健康フォーラム▶

ごあいさつ

NPO 法人 未来プロセス 理事長
谷　幸治

未来社会の発展には、「人々の健康保持」と「地球の環境保全」が大きな課題であります。高齢化社会を迎えるにあたり、健康の保持・増進、医療・福祉の重要性は弥増すものと考えられますが、そのためにも地球環境の破壊・汚染の防止が必要であり、両課題は密接に関連し、将来の人類福祉を左右する重要課題であると認識されます。

「特定非営利活動法人 未来プロセス」は、より良き未来社会の構築に向けて、この二大課題に役立つ非営利的活動を国際的視野で展開し、貢献することを目的として設立され、積極的に活動して参りました。

特に国内外の医療従事者に対する育成事業、医学・医療研究活動の助成ならびに国際学会の開催支援、市民に対する啓発活動、中国内蒙古地区の砂漠植林支援事業などに関しては、積極的・継続的に取り組み、成果を積み重ねて参りました。

2015 年度からは、新たに希少動物保護を目的とした国際的植林活動にも取り組み、マレーシアの NGO を支援するとともに、現地にて植林活動の研修を開催しました。

何卒「特定非営利活動法人 未来プロセス」の設立趣旨にご賛同いただき、その活動にご支援ご協力賜りますようお願い申し上げます。

２０１７年７月吉日

NPO法人 未来プロセス

会員募集

私たちは医療の充実を図るためにさまざまな啓蒙・啓発活動を行っています。

この活動に賛同いただける会員様を募集しています。より一層のご支援をよろしくお願いいたします。

※ 申込みは入会申込書を NPO 法人事務局へご請求ください。

正 会 員　当法人の運営や企画に積極的に参加したい方。議決権があります。

入 会 金　10,000 円
年 会 費　10,000 円

賛助会員　当法人の趣旨にご賛同頂けるが運営や企画には参加しない方。議決権がありません。

入 会 金　100,000 円
年 会 費　50,000 円

協賛・寄付も受け付けております。

健康フォーラム、公開医学講座ならびに希少動物保護を目指した植林活動への協賛・寄付等によるご支援をお待ちしております。
詳しくは NPO 法人未来プロセス事務局（TEL.06-6885-1021）へお問い合わせください。